



あいおいニッセイ同和損保  
MS&AD INSURANCE GROUP

TOYOTA  
mobility  
FOUNDATION



タテシナ会議

2026年3月2日

マツダ株式会社

三次市

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

一般財団法人トヨタ・モビリティ基金

## 「タテシナ会議」高齢者安全運転支援分科会、 広島県三次市で「健康×安全ドライビングフェスタ」を開催

—交通事故死傷者ゼロに向けて、地域住民、行政、企業の連携を推進—

三次市(市長:福岡 誠志)、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社(代表取締役社長:新納 啓介)、一般財団法人トヨタ・モビリティ基金(理事長:豊田 章男)、マツダ株式会社(代表取締役社長兼 CEO:毛籠 勝弘)は、企業の枠組みを超えた交通事故死傷者ゼロに向けた「タテシナ会議\*1」の「高齢者安全運転支援分科会」の活動の一環として、2月28日(土)に「健康×安全ドライビングフェスタ」を開催しました。



「交通安全マップ」贈呈式の様子

左から、あいおいニッセイ同和損害保険:麻田 明利執行役員、マツダ:佐賀 尚人常務執行役員、  
三次市:福岡 誠志市長、トヨタ・モビリティ基金:松田 進理事長代行

「高齢者安全運転支援分科会」は、高齢ドライバーが安全に運転を続けられる社会の実現を目指し、運転の安全を個人の努力や責任に委ねるのではなく、クルマ・人・交通インフラの三位一体(\*2)の考え方のもと、政府・自治体・地域住民・企業が連携して各種取り組みを進めています。三次市ではこの取り組みの実証実験として、2024年度より「三次いきいき安全ドライブ運動」を開始しています。2025年度の活動の一環として開催された本フェスタには150名を超える市民が参加しました。当日は、レーシングドライバーの寺田陽次郎氏による、「いつまでも元気に挑戦を続けられる秘訣」をテーマとした基調講演のほか、2025年度の活動成果を報告し、参加者一人ひとりが自身の運転や身体の状態を振り返り、今後の安全運転につなげるきっかけとなりました。



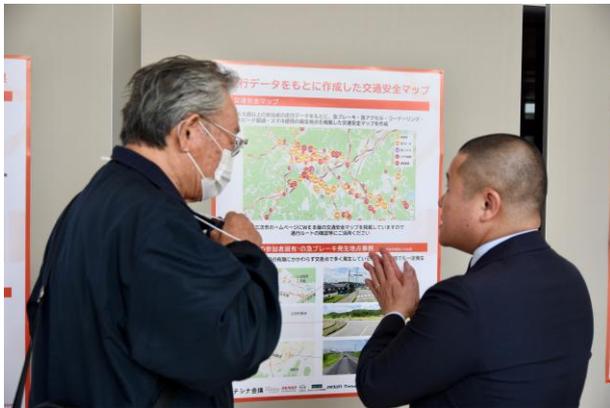
寺田陽次郎氏による基調講演



三次いきいき安全ドライブ運動の報告

具体的な活動成果として、2024 年度に引き続き、車の挙動を測定する車載器である「AD テレマティクスタグ\*3」により収集した走行データをもとに、市内の高齢ドライバーの運転特性や、地域の交通危険ポイントを示す「交通安全マップ」を更新しました。その上で、2025 年度の新規取り組みとして、ドライブレコーダー映像と AI 解析技術を活用した「ドラみる\*4」で収集した実際の走行映像により、急ブレーキのような事故リスクが発生している場所や場面を紹介し、リスクを回避するためのポイントを整理し伝えました。加えて、声により日々の心身の状態を測定する「音声バイオマーカー\*5」による分析結果を紹介し、運転とドライバーの心身の状態との密接性を示しました。

また、会場では高齢ドライバーの皆さまが長く安全運転を続けられる仕組みに必要な脳体力や脚力、空間認知力の測定やトレーニングのほか、車の安全技術の体験などを通じて、参加者が自身の心身の状態に気づき、「三次いきいき安全ドライブ運動」への理解と関心を深めるプログラムを実施しました。



展示・体験コーナーの様子①



展示・体験コーナーの様子②

2026 年度は、これまでの取り組みで得られた知見をもとに、ツールや施策を組み合わせた安全運転トレーニングプログラムの効果を検証するとともに、社会実装に向けた検討を進める予定です。

「タテシナ会議」高齢者安全運転支援分科会は、今後も関係する皆さまとの連携を通じて、交通安全への意識・関心の醸成を図りながら、地域の皆さまが長く安全運転を続けられる仕組みの構築と全国への普及を目指し、交通事故死傷者ゼロに向けた取り組みを推進していきます。

\*1: 毎年、交通安全に祈りを捧げる蓼科山聖光寺(長野県茅野市)の夏季大祭において自動車や関係する業界のトップ役員が一堂に会すことを受け、2019 年に、交通事故死傷者ゼロの実現に向けて思いを共有し、協働するための議論の場として本会議



あいおいニッセイ同和損保  
MS&AD INSURANCE GROUP

TOYOTA  
mobility  
FOUNDATION



タテシナ会議

が初開催されました。2023年7月の第2回開催時には、交通安全への想いと交通事故死傷者ゼロに向けた取り組みをさらに実効性のある活動にしていくための5つの「分科会」も発足しました。

分科会では、児童や高齢者など交通弱者への支援や自転車・二輪車が絡む事故、海外での事故などの課題に焦点を当て活動しています。発足以来、「交通事故死傷者ゼロの実現時期を少しでも早めること」を目標に掲げ、現在までに45の企業から約200名※が参画し、クルマ・人・交通インフラの三側面（「三位一体」）から、政府・自治体や関係機関とも連携を図り、活動を推進しています。 ※2026年2月時点

- \*2: 「クルマの安全技術の進化、人の気づきと行動の見直し、交通インフラや社会の仕組みによる環境改善が役割を分担し、同時に機能する」という考え方です。
- \*3: 「AD テレマティクススタグ」および、専用スマートフォンアプリ「Visual Drive」は、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社が提供するサービスです。
- \*4: 「ドラみる」は株式会社デンソーが開発し、トヨタ・モビリティ基金ほか関係企業と実証中のサービスです。
- \*5: 「音声バイオマーカー」はマツダ株式会社と国立大学法人東京大学・株式会社 AGI が協同開発したものです。

#### <関連リンク>

タテシナ会議・分科会活動に関する詳細

[https://toyotamobilityfoundation.jp/activity/traffic\\_safety/tateshina\\_meeting.html](https://toyotamobilityfoundation.jp/activity/traffic_safety/tateshina_meeting.html)

#### <ご参考>

■「タテシナ会議」高齢者安全運転支援分科会、「交通安全マップ」を広島県三次市に贈呈(PDF)

<https://newsroom.mazda.com/ja/publicity/release/2025/202502/250213b.pdf>

■「MAZDA MIRAY BASE」内、広島から全国へ広げたい!「支えあい交通」マツダの挑戦

<https://www.mazda.com/ja/mazda-mirai-base/articles/20250911-sasaeai01/>

■YouTube「Mazda Official」MAZDA CO-PILOT CONCEPT 進化する安全技術 地域と築く“支えあい交通”

<https://www.youtube.com/watch?v=QHH9m7cQ-pc>

以上